

「将来の原発比率の意見聴取会」で中電社員が発言 「放射能の直接的影響で死者はいない…」

2012.7.17
名古屋聴取会

発言者に中部電社員

「放射能で死者いない」

東京

政府が発電量に占める将来の原発比率について国民の意見を聞く三回目の意見聴取会が

十六日、名古屋市で開かれた。九人の発言者の中に中部電力の課長級職員が含まれ、原発推進を主張。会場の一部から「やらせだ」などと批判の声が上がった。

発言したのは、中電原子力部に勤務する課長級の岡本道明さん(四六)。「個人的な意見として、原発をなくせば経済や消費が落ち込み、日本が衰退する」と述べ、原発の新増設を前提とする20〜25%案に賛成の立場を表

発言したの、中電原子力部に勤務する課長級の岡本道明さん(四六)。「個人的な意見として、原発をなくせば経済や消費が落ち込み、日本が衰退する」と述べ、原発の新増設を前提とする20〜25%案に賛成の立場を表

発言したのは、中電原子力部に勤務する課長級の岡本道明さん(四六)。「個人的な意見として、原発をなくせば経済や消費が落ち込み、日本が衰退する」と述べ、原発の新増設を前提とする20〜25%案に賛成の立場を表

発言したのは、中電原子力部に勤務する課長級の岡本道明さん(四六)。「個人的な意見として、原発をなくせば経済や消費が落ち込み、日本が衰退する」と述べ、原発の新増設を前提とする20〜25%案に賛成の立場を表

十五日に開かれた仙台市の会場でも、東北

十五日に開かれた仙台市の会場でも、東北

十五日に開かれた仙台市の会場でも、東北

電力業界のホンネ丸出し！
その言葉を福島で言えるのか？

この意見聴取会で、意見を述べた中部電力社員は、事前に会社に参加することを伝えていたそうです。さらに、会社の指示で参加したのではなく、あくまでも「個人の参加」「個人の発言」ということで意見を述べたとしています。しかし、その内容は、誰が見ても中電・電力業界の本音を代弁したとしか思えません。聴取会の参加者の多くはそう感じたのではないのでしょうか。だから「やらせだ！」という批判を受けることになったのです。私たちは、このような意見聴取会で、公平に全ての国民の意見を聞いたかのようにことを押し進める政府の姿勢を許すわけにはいきません。

「放射能で死者はいない」ということを、避難している住民の前で言えるのでしょうか。故郷に住めなくなってしまった人々の思いをどのように受け止めているのでしょうか。まさに、福島第一原発の事故により「安全神話の崩壊」を突きつけられた電力業界や政府は、「国民の為」「日本経済の発展の為」と、なりふり構わず原発再稼働に躍起になっているのです。このような姿勢が意見聴取会に露呈したのではないのでしょうか。